

同窓会の活性化を喜ぶ



千代田学園理事長 吉田 博司

学園創立 60 周年を機に高校、短大の同窓会（樟美会とひまわり会）の活動が“活性化”してきたこと、うれしい限りです。

両組織の『要（かなめ）』である役員体制と事務局体制が整備され、始動しましたお陰です。学園の充実や発展を願って、陰に陽に支えていただいている卒業生の存在は、本当に有難いものです。

その存在と活発な動きは後輩を励ます大きな力になっています。多くの先輩の諸兄姉が社会の各分野で活躍されているお姿や旧交をあたためておられる様子が「会報」等で伝えられると、後輩のみんなは「私もあのようになりたい」と自らの将来像をリアルに描き、その実現のために努力します。同窓会活動の効用は、そんな面でも大きいと思います。

また、かつて指導を受けた先生のことを思い起こし、“交流”を再開したとか、音信不通であった旧友の消息を知り“集い”を企画したとか、あれこれ、その効用は絶えません。そんなことが日々のくらしの潤いにもなり、活力源になっているといううれしい感動的なエピソードにも接されます。

同窓生のみなさん、三年乃至五年の間で結ばれた“絆”をいつまでも大事にしていって下さい。そして、みなさんの母校がいつまでも文字通り心のふるさととして愛され、親しまれるように努めていきたいと願っています。